

海外での教育

渡航から帰国までの、アメリカ・カナダでの日本の子どもの教育



世界・アメリカの日本人留学生

世界の日本人留学生：11%減（2008年）

経済協力開発機構（OECD）などが公表した日本人留学生数を文科省がまとめた結果、2008年の日本人留学生は6万6833人で前年に比べて11%減少。4年連続で、落ち込み幅は過去最大だった。

1980年代に1万人台で推移していた留学生数は90年代に入り急増。2004年にはピークの8万2945人に達した。しかし、その後は減少。2008年は前年に比べて約8300人減り、1998年の約6万4千人に近い水準にまで落ち込んだ。

留学先は米国が2万9264人（前年比14%減）で最も多く、中国が1万6733人（同10%減）、英国が4465人（同22%減）で続いた。上位10カ国のうち、カナダが同35%増の2169人、ニュージーランドが同10%増の1051人になったほかは軒並み減少した。

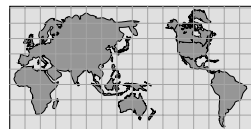
出典：http://www.nikkei.com/news/headline/article/ 2010/12/22

アメリカの日本人留学生：15%減（2009～10年）

米国国際教育研究所（IIE）が発表したアメリカの大学・大学院の外国人留学生数（2009～10年）によると、日本人留学生は約2万4800人で、全体の6位。前年より15.1%減り、上位25カ国中、最大の減少率だった。

IIEの報告によると、米国への日本人留学生数は1994～98年にかけては世界一だったが、1997～98年の4万7千人をピークに減少傾向が続く。

一方、前年比30%増だった中国（12万7600人）が、インド（10万4900人）を抜いてトップになった。世界的な不況の影響もあり留学生数が減る国や地域が多い中、中国の大幅増により、アメリカへの外国人留学生の総数は前年比3%増の69万1千人で過去最多だった。



出典：http://www.asahi.com/national/update/1206/TKY201012060068.html 2010/12/6

日本の留学生減るばかり：「日本の若者の内向き志向」

昨年12月の「日本人留学生の急減」を報じたニュースを2つ紹介しました。

これらの記事から、アメリカへの日本人留学生の動向をまとめてみると、次のようになります。

1997-98年：約4万7千人（最高）

↓

2007年：約3万4千人

↓（14%減）

2008年：約2万9千人

↓（15%減）

2009年：約2万5千人

明らかに「アメリカへの日本人留学生の急激な減少」が、また、日本人の留学先としてアメリカが最も多いことを考えると「世界へ出る日本人留学生の急減」とみなすことも出来ます。

この「海外へ目を向ける学生の減少に歯止めがかからない」傾向を、最近の日本では「若者の内向き志向」と呼んでいきます。厳しい就職活動・経済負担・留学の短期化などがその理由としてあげられていますが、就職した若者も含めて、単に「海外は敬遠」の傾向もみられるようです。

しかし、「国際的に活躍できる人材」を育成方法としての日本人の海外留学の急な減少は、近い将来の企業活動や国の経済発展に大きな支障をきたすものとして、危機感を持って捉えられています。

国や企業の国際競争力の視点で捉え、日本の5倍以上の留学生をアメリカに送り込んでいる中国とインドの今後の発展に対抗するため、より多くの留学生を送り出す政策を期待する声も多く聞かれます。

（松本）